

地域コミュニティと大学

林 英輔

麗澤大学国際経済学部

NPO-KIU

話の流れ

1. 本題への導入部：麗澤大学入学式での柏市長・本田氏の挨拶
2. 学校の開放化
3. 現在のコミュニティースクール構想
4. 学校と地域の共生を目指して
5. 再び地域における大学の役割
6. インターネット時代の学校図書館の課題
7. その先にあるもの
8. 終わりに。まとめ

今年の入学式での 柏市・本田市長の挨拶

新入生が柏市民となることへの歓迎

麗澤大学の柏市への貢献の例として、柏インター
ネットユニオン（kiu）の活動

①地域にとって大学って、何だろう？

②kiuとは。柏市学校教育ネットワーク

学校と地域

大学と学校と地域

大学地域における大学の役割

大学は地域の一部である

施設、文教環境を形成

住民、青年住民の増加

社会、文化、教育、教養（大学教育→生涯学習）

役割：

地域経済へ貢献

地域文化へ貢献

地域教育へ貢献

学校と地域

学校と地域の問題を再考する背景

- ①「開かれた学校」論
- ②最近の学力低下問題の議論
- ③街づくり、街おこし

学校と地域の共生
地域の教育力
家庭の教育力

開かれた学校

コミュニティースクール論（従来）：

学校を地域社会改造の中心機関としてとらえ、子どもや大人を地域社会活動の参画させながら、学校と地域社会の緊密な相互関係を図ろうという理論→欧米では大恐慌後の疲弊した都市社会の混乱の中で、新しい社会秩序の建設に向けて、教育の立場から、社会計画に参画し、活動を展開しようとした。

日本では、第2次世界大戦後の社会状況の中で導入された。

開かれた学校

- 「開かれた学校」の提言

- ①臨時教育審議会第三次答申(昭和62年4月)

「開かれた学校」への転換、学校と家庭・地域の連携の促進

- ②中央教育審議会第一次答申(平成8年7月)

学校の地域への開放、地域の教育力の活用、地域コミュニティ、地域学習拠点としての学校の視点の強調

- ③中央教育審議会第三次答申(平成10年9月)

「開かれた学校」を「地域コミュニティ形成」の拠点とする活動の重視

コミュニティースクール構想

教育の情報化時代のコミュニティースクール論

- 教育の情報化時代（IT導入）のコミュニティースクール論
- **金子郁容氏他**(平成13年12月:岩波書店)
- **わが国の教育の閉塞的な状況からの脱却のため**
- **教育の情報化(ITの導入)を進めるため**
- **ボランティア活動を背景にした開かれた学校、自律的学校を目指す**

地域と学校の共生を目指して

地域⇔コミュニティ⇔知域(?)

地域の教育力、家庭の教育力の回復を目指す

労働人口の都市集中化→核家族化→母親の社会進出→世代進行→地域コミュニティのコミュニケーション力の弱体化と家庭の教育力の弱体化
→コミュニティの教育力の弱体化

ネットワークはコミュニケーション回復の強力なツールとなりうるか？←yes！と期待

学校側から：

学校の地域に対する説明責任→情報発信力の強化

地域と学校の共生を目指して

- **教育の情報化の進行**

'90年代からの潮流

児童生徒の情報活用能力の養成・強化

(情報学習の強化)

IT活用による教科学習の強化

柏市では、どの学校でも総合学習や情報学習が日常的に行われていて、その意味では、先進校・後進校の区別は一見なくなっている。

中原小(梅津先生の話)、八小(荒木先生の研究)の例

地域と学校の共生を目指して

ネットワークによる学校と家庭の交流

Kiuの活動：

学校ネットワークの構築、運用への支援

学校の情報教育やIT活用教育への支援

Kiuの活動は大学側からみると大学の地域支援（貢献）活動、学生教育の場と機会

未だ多くの課題：

教育コンテンツの確保

情報収集、編集、発信の活動の一層の拡大

教員のIT活用能力の養成強化

学校ITシステムの運用への支援

Kiuにおける学生の活動

**Kiuにおける大学生の活動を紹介する
写真を数枚紹介します。**

(肖像権の問題があるため、ホームページ上には掲載致しません。)

再び地域における大学の役割

- **地域の学校支援**
- **地域の生涯学習支援**
- **地域の行政支援**
- **学生の教育の場としての地域の位置付け**
地域貢献活動の教育プログラムの整備
授業カリキュラム上での位置づけ

インターネット時代の学校図書館

教育の情報化進行の中で学校図書館のIT化は相対的に低速（立ち遅れ現象が見られる）

人（子供も含めて）の知能、知識の形成に「本」のもつ役割は依然として重要

例：幼児への絵本の読み聞かせは本への親しみと関心・興味を育てる

児童への本の読み聞かせや読書指導は、読書力の養成と自主的知能向上や知識の形成に効果

一方、インターネットからの情報収集、情報活用の普及に比べて、図書からの情報収集、情報活用は相対的に弱体化しているのではないだろうか？

インターネット時代の学校図書館

◎司書教員の役割の拡大（新解釈か）

- ・ 情報活用能力養成の指導者
- ・ デジタル情報＋図書情報

◎学校図書館図書のネットワーク検索機能の整備 と学校図書館間ネットワークの整備

（柏市で開始された例、情報教育担当教諭と司書教諭が連携して運用に当たる）

◎学校におけるPTAや地域ボランティアによる本の読み聞かせ活動は見られる、横の広がりネットワークの活用が期待される。

（幼児への読み聞かせる絵本の情報や生徒児童の読書習慣に役立つ情報をネットワークで検索可能にする）

その先にあるもの

学校教育、生涯学習、市民の文化活動・知的生活への支援

- ①情報の電子化とネットワークによる利用環境の整備の促進
- ②図書館の貸し出しにとどまらない新しい市民サービスにネットワークをコミュニケーションツールとして利用する
- ③その対象として、
 - 地域図書館、
 - 全国的図書館と地域中心図書館
- ④ネットワークを通して事前学習（調査）の上で、本物を鑑賞する意義は大きい。その対象として
 - ミュージアム
 - ギャラリー
- ⑤一般のコミュニケーションツールとして予約、イベント情報や関連情報の発信、オンライン利用等の対象として、
 - 文化施設

終わりに

大学と地域の関係から考え始め、学校と地域の共生の必要性と課題を議論し、インターネット時代の大学と学校教育の接点として、

地域における教育の情報化に関して、大学の学校支援の効果と可能性を議論し、再び、地域における大学の役割に戻り、更に、地域の教育の要素として、インターネット時代の学校図書館の課題を議論し、更に、その先にあるものも視野に入れてみては？という議論展開を行った

その先のあるものとしては、学校と地域との関連から、市民の教育、文化、知的生活の情報交流のコミュニケーションツールとしてのネットワークの利用の推進に大学が貢献してゆく道を探ることを提案する。